

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	21	○利用者同士の関係性の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援にこれまで努めてきた。 その過程で、前回の目標達成計画では、「共用空間における一人ひとりの居場所づくり」を目標設定し、昭和二桁代の利用者や共用デイの利用者の中に居室で一人で居るのは好まないが、他の方々との団欒は苦手とされるタイプの方の利用がみられる様になり、そのような方の居場所づくり、生活づくりに取り組んだ。 そのために、ハード面でリビングエリアの空間を5か所設営し、多様な利用者が寛げる居場所造りは完成した。 しかし、利用者達自らの所為によりこれらの居場所で楽しめるのは難しく、職員の支援が不可欠である。 そこで、この仲間づくり支援に取り組んで、利用者同士が楽しく過ごせる暮らしの場を目指す。	仲間をつくろう！ 仲間との共同生活で生き甲斐を！	①会話による楽しい場造りに繋がる新たな仲間作り開始 仲間との楽しい場を根付かせる様に、利用者間相性に基づいて、職員が声掛けにて大人数～数名単位～2名ペアの仲間作りを、リビング内において座席エリア5か所において実施。介護職員全員による実施状況報告を、QC会議にて行い情報共有する。	2ヶ月
				②QC会議での実践報告の中から、新しい共同生活介護スタイル実践成功職員により、模範運営見学研修を日勤介護職員に実施。「利用者仲間と過ごす楽しい生活」を全面的展開の準備をスタート。	2ヶ月
				③新しい共同生活介護スタイル「利用者仲間と過ごす楽しい生活」を定着させ、入居者には自分の居場所探し、退屈感を抱くことが無い様な場とする。また、デイ利用者が次回も来なくなる気持ちを抱いて貰える様な楽しい場とする。	1ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。